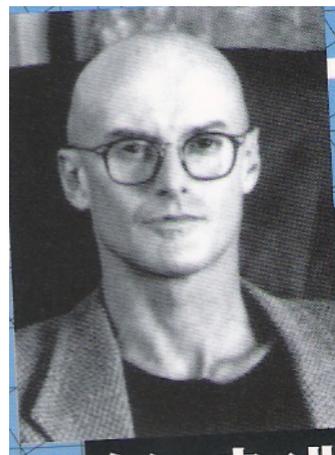


## ケン・ウィルバー (Ken Wilber)

1949 米国のオクラホマ州に生まれ、大学で生化学を専攻しましたが卒業後むしろ心理学に興味をもたれ独自に研究を重ね 23 歳時 600 ページ以上に上る「意識のスペクトル 1.2」を書き上げました。この本が始めて 1977 年に出版されました。その後も沢山の本を書き、その内 25 カ国語にも翻訳された本も有ります。

著者の邦訳が次の本が出版されています：

1. 意識のスペクトル 1・2、春秋社
2. 無境界、1986 平河出版社
3. 構造としての神、1998, 青士社
4. グレース&グリットー愛と魂の軌路、1999
5. 科学と宗教の統合、2000
6. 万物の歴史、2002-春秋社
7. ワンティスト、2002、
8. 統合心理学への道「知」の眼から「観想」の眼へ、2004
9. 存在することのシンプルな感覚、2005
10. アートマン・プロジェクト、春秋社
11. 目には目を、青士社
12. エデンから、講談社
13. 進化の構造、
14. インテグラル・スピリチュリティ、2008
15. 万物の理論、



ケン・ウィルバー関係の HP

1. <http://in.integralinstitute.org/default.aspx>
2. <http://www.integralworld.net/>
3. <http://www.kenwilber.com/home/landing/index.html>
4. <http://wilber.shambhala.com/>
5. [http://www.kheper.net/topics/Wilber/Wilber\\_I.html](http://www.kheper.net/topics/Wilber/Wilber_I.html)
6. <http://integrallife.com>

## ウィルバーの進化論 ジャムシデイ ジャムシッド 医学博士

初めに：

ウィルバーは進化を前進的または進歩的と考える。ウィルバーは進化論では現実の構造の深さに意味を求め、自分のことを進化論者より深化論者 (depthist) と呼んでいる。

現実の深さはコスモスの各領域 (物質身体、知性、精神性) それぞれにおいては意味が異なるが十分に検証可能と考える。

物質身体領域では分子より細胞が、農業社会より産業社会のほうが進化 (深化) 的であり、知的領域では科学合理的な分析が神話・宗教的なものより進化 (深化) 的であり、精神性領域では合理性より統合的またはホリステイックなアプローチのほうが進化 (深化) 的である。

本論：

ウィルバーはそれぞれの現実をホロン (holon) 的と考える。したがって、現実の進化がホロンの原理に基づいて起きる。ウィルバーがホロンには20の原理を展開した。ここでその一部を紹介することにする<sup>1</sup>。下線で示された文章がホロンの原理である。

ホロンは全体 (hol) でありながらより大きな全体の部分 (on) である。ですから現実は全体 (自律性) のみ、あるいは部分 (依存性) のみであり得ないということになる。言い換えると現実の全てが相互関係にあり、共存し、そして共に進化 (深化) する。より大きな深さ、より小さな幅が進化です。

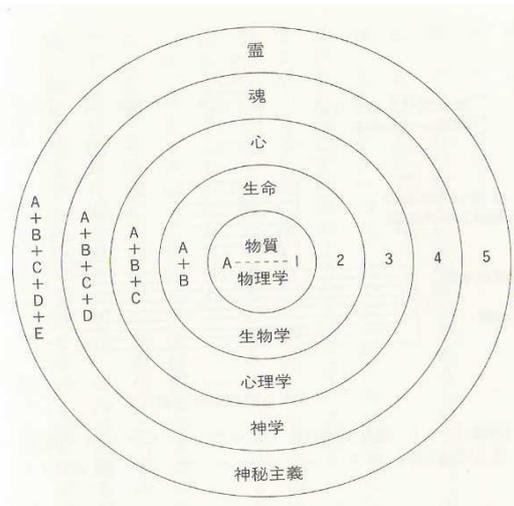
分子が全体でありながら細胞の部分であり、都市が全体でありながら国の部分であり、個人が全体でありながら集団の部分であり、一家族が全体でありながら地域社会の部分であり、等等と例を挙げることができる。

または一システムとして全体の中に相互関係を持った様々大小のホロンを見出すことが可能であり、ロシア人形の様な入れ子の構造をしている。図1はコスモス (Kosmos) の構造の進化を中 (低次) から外 (高次) の方向へ示している。各層 (ホロンと考え) が低次の層の全てを含んで越えたものであり、より高次の層の部分となる。高次ほど進化 (深化) したものと考える。低次を含んで超えるという

ホロンの原理をホラーキー (Holarchy) 的進化パターンという。

図1 ホロンの深化

生命が物質を含んで超える(A+B), 心が物質と生命を含んで超える (A+B+C) 魂が物質と生命と心を含んで超える (A+B+C+D) ,霊が物質と生命と心と魂をふくんで超える (A+B+C+D+E)。低次が欠落すれば高次の進化ができない。



<sup>1</sup> 興味のある方はウィルバー著作の“進化の構造”の第2章を見てください。

前モダン、モダンそしてポストモダンにおける人間の種々の様々な経験を通じてコスモスの組成が少なくても4つのタイプのホロン（及びホラーキー的な進化パターン）からできていることがわかっている。

または私たちが日常ホロンの現実を少なくても4つの次元から経験することができる。ウィルバーがこれらホラーキーのタイプあるいは一ホロンの次元を四象限地図（four Quadrant map）と呼んでいる（図2）。

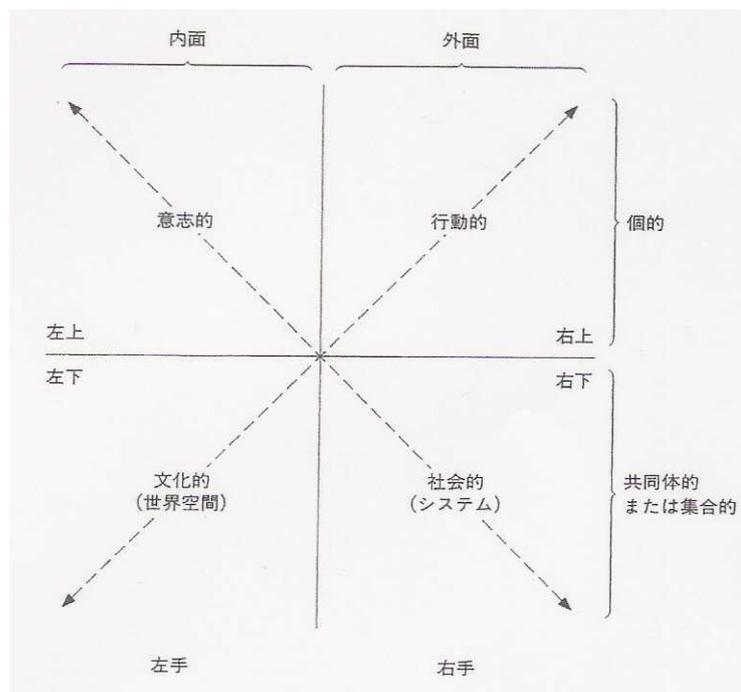


図2 ホロンの四象限

一ホロンの現実を個的なものおよび集合的なものの内面と外面から経験するのはホロンの正確な性質の四象限です。

左上手の象限（私）：意思的、主観的、内面的、個的....例（ライン）：美、アート、思想、文学、宗教、霊性 等

右上手の象限（それ）：行動的、客観的、外面的、個的....例（ライン）：真、学術 等

左下手の象限（私たち）：間主観的、内面的、集団的.....例（ライン）文化、道徳、人間関係 等

右下手の象限（それら）：間客観的、外面的、集団的.....例（ライン）社会組織、法律、政治、経済技術 等

■例（ライン）：科学技術は右上手の象限に属するがあくまで人間の産物である以上四象限の影響を受ける。または科学技術には四つの次元（個的と集合的の内面、外面）からアプローチできる。そして科学技術が最も強く影響を及ぼした象限においてホラーキー的な進

化（深化）パターンを辿る。各象限に属する他のラインについても同様な説明の展開が可能で、仏像も花も犬も政治もお祭りも全てが四象限の影響を受け、四次元的なアプローチの対象になる。

図3はコスモスのホロンの実体の四つのタイプとそのホラーキー的進化（深化）パターンを紹介する。各象限における13の深化段階（レベル）を確認できる。レベル番号は各象限間で対応している。言い換えると進化が各象限において共進化である。

■例：左上手のレベル8の情動が右上手の辺縁系（情動を司る脳局在）と左下手のチューホン文化（Typhonic=乱暴的）と右下手の略奪的な社会行動に対応している。

発展が四象限においてバランスよく行われるとコスモスが安定しより高次の進化が可能になる。逆に偏りの発展が進化の流れを途絶えて歪んだシステムあるいはシステムの破綻につながる。

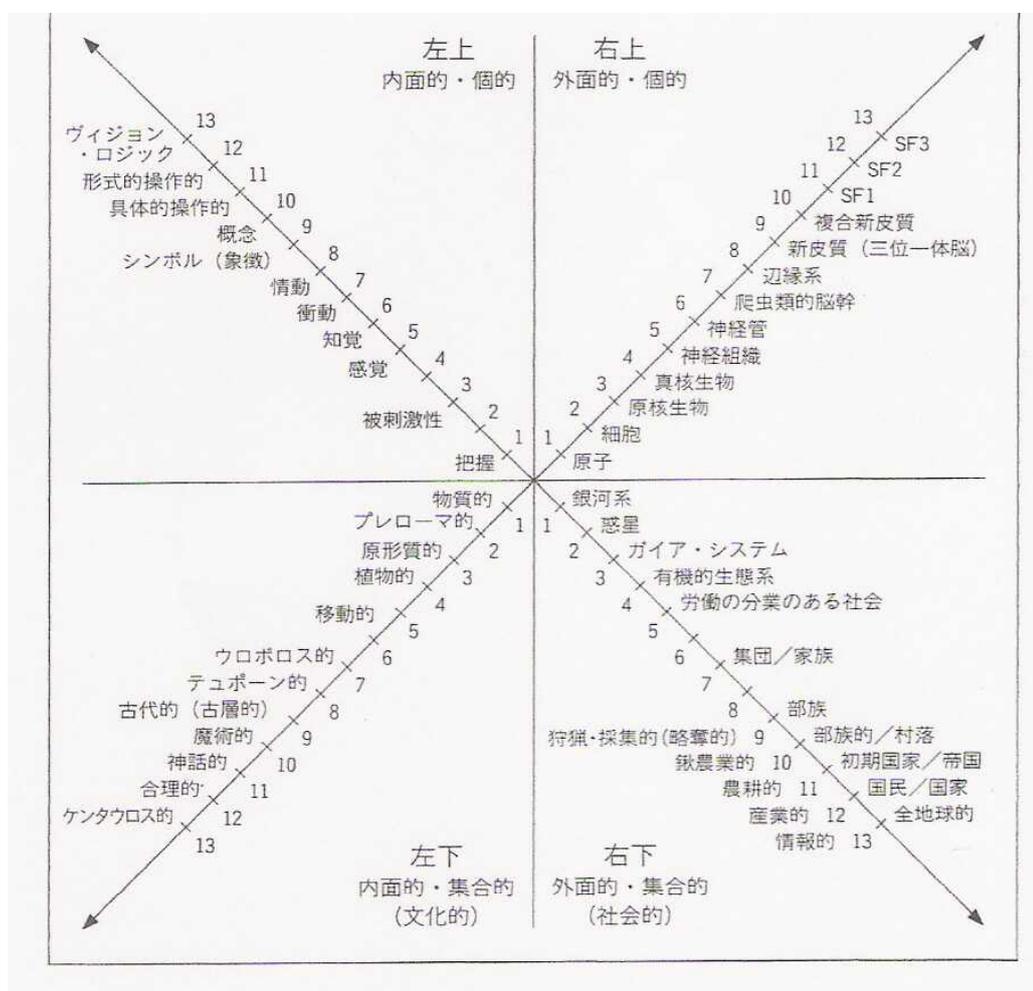


図3 四つの象限の深化レベル

象限の進化（深化）が13段にとどまらず無限大に展開する。ウィルバーがこの無限大を非二元（nirvana=Nondual）または満/空（Fullness/Emptiness）と呼ぶ。左上象限

1 3段以後の人間の意識発達の深化（自己超越）としての心霊性（spirituality）レベルについて簡単に紹介する。ウィルバーが心霊性には四つのレベルを確認できると考える。年齢、性別を問わず人々がこれら非常な神秘体験を境地現象として経験するができ、そして左下手の世界観（文化）レベルの影響を背景に自分の体験を解釈すると考えられる。

図4 心霊性境地（横軸）と世界観（縦軸）の関係を示す。

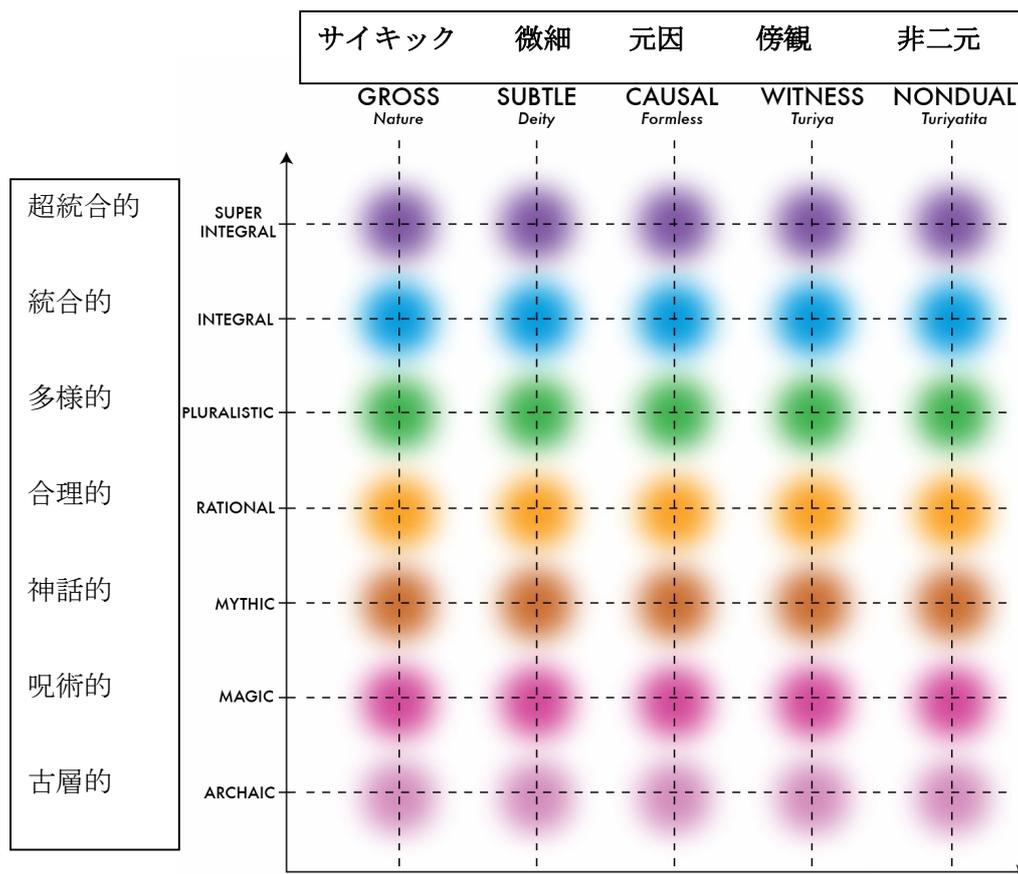


図4 （自己超越）体験と世界観との関係

正常な境地；覚醒、夢を見る睡眠、夢を見ない熟睡眠・・・生まれつき（pregiven）  
 非常な境地（心霊性）；サイキック（Gross）＝自然神秘主義—すべての自然と一体化する。

微細（Subtle）；神性神秘主義—自然の源〔神と女神〕と一体化する。

元因(Causal)；無形神秘主義—非顕現の没入または停滞を体験する。

傍観(Witness)；映し出された全てを観察する。鏡のような存在感を経験する。

非二元(Nondual)；統合〔非二元〕神秘主義—顕現と非顕現との統合

ウィルバーにとって至高な境地の体験がその解釈との関連が重要なテーマです。体験者の世界観により至高な境地が地上に天国も地獄ももたらすことができる。

文献：

1. 万物の歴史—春秋社,2002
2. 進化の構造、1998
3. <http://in.integralinstitute.org/talk.aspx?id=1096>